

三重大学施設部

Facilities Department

令和 7 年技術系職員オンライン業務説明会

令和 7 年 3 月 2 6 日

目 次

1. 令和6年度 施設部の方針と目標
2. 施設部の体制
3. 三重大学施設系職員のキャリアパス
4. マインド ～ものづくりはひとづくり～
5. 三重大学の施設の現状
6. 国立大学等の施設整備の仕組み
7. 三重大学の施設整備

1. 令和6年度施設部の方針と目標

(方針)

1. 信頼される組織

- ・施設部の個々の職員が**自覚と責任をもって業務に取り組み**，「安心して任せられる」，「頼りになる」と学内外から評価される組織を目指す。
- ・常に危機管理を意識し，**関係者との情報共有を図り，迅速な対応が行える**組織を目指す。

2. 挑戦する組織

- ・常に改革，改善を意識して業務に取り組むとともに，**技術力という強みを最大限に活用して**新たな業務やプロジェクトに積極的に挑戦して，成果を実現する組織を目指す。

3. 調和を大切にする組織

- ・他部署の実情を理解し，課題（情報）を共有しながら解決していく組織を目指す。
- ・安全で調和のとれたキャンパス環境を維持向上させていく組織を目指す。
- ・働き方改革に沿ったワークライフバランスを実現する組織を目指す。

(目標)

- 平時は積極的に業務に取り組むとともに，有事にも活躍できる組織を目指す。
- 業務において，トラブルやミスが発生したことが判明した時点で，速やかに事実を報告する組織を目指す。

- 積極的に改革や改善に取り組み，互いに学び日々研鑽する組織を目指す。
- 自らが「感じ」，「考え」，「行動する」ことができる組織を目指す。
- スペシャリストとしての専門的な資格と知見を有し，ゼネラリストとして，大学の公益性・公共性を自覚し，経営的な視点と使命感を持つ職員を育てる組織を目指す。

- 新たな業務やプロジェクトについては，関係部局と綿密な協議を行い，合意形成を図る組織を目指す。
- ワークライフバランスを実現するために，積極的に業務改善に取り組むとともに，タイムマネジメントを行い業務負担の軽減を図る組織を目指す。

2. 施設部の体制

施設部



施設企画チーム

施設管理チーム

施設環境チーム

総務担当 (工事、役務に関する経理・契約)

企画担当 (施設の企画・予算要求
・スペースマネジメント)

13名

建築担当 (建築・土木整備)

電気担当 (電気・通信設備)

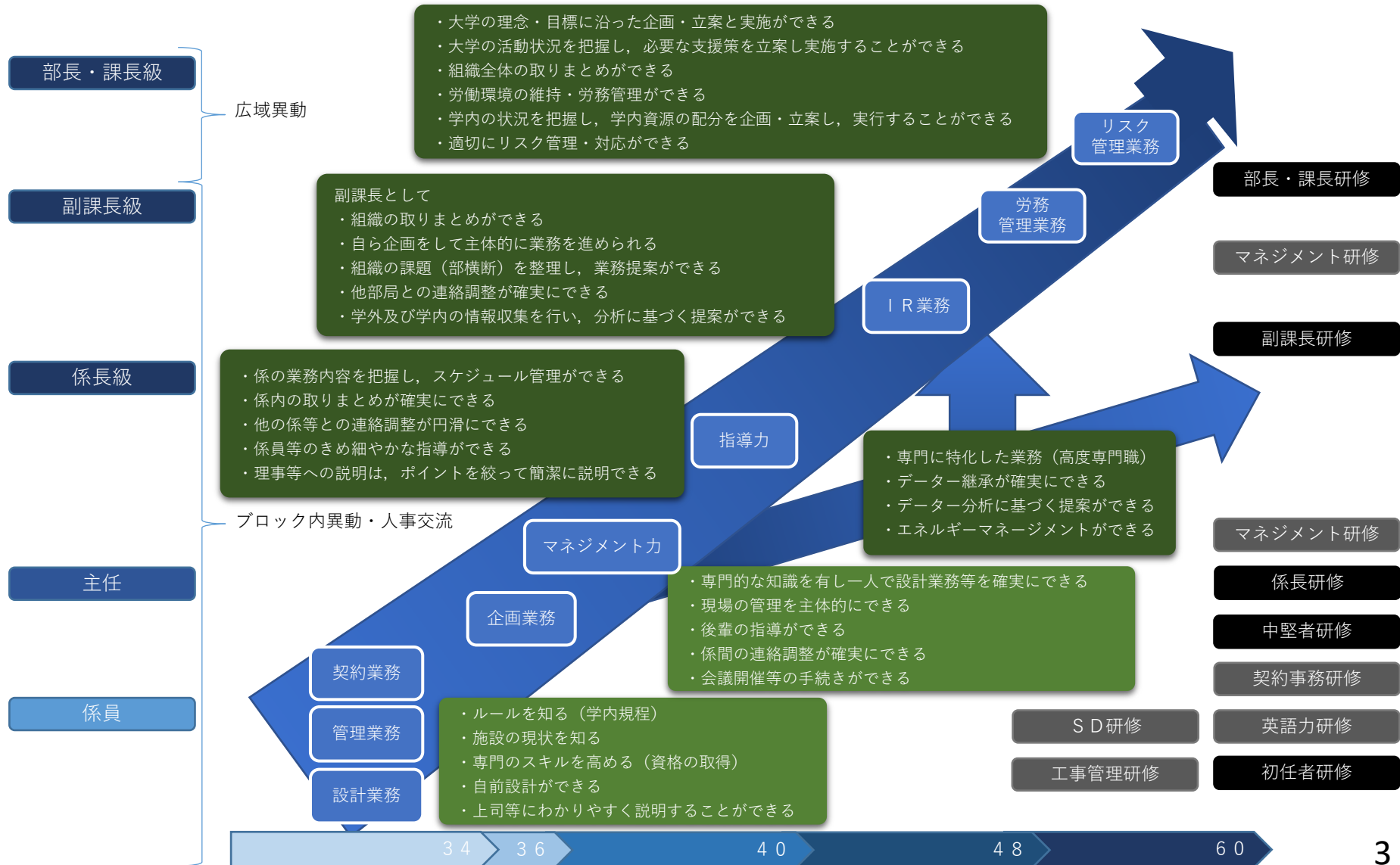
機械担当 (給排水・空調設備)

8名

環境担当 (環境マネジメントシステム
の企画・立案)

7名

3. 三重大学施設系職員のキャリアパス



4. マインド ～ものづくりは人づくり～

立ち止まって考えること

Knowledge

(深い知識があるか)

Passion

(情熱があるか)

Honesty

(仕事に対して正直か)

Sensibility

(相手のことを感じ
取れているか)

マインド

- ・ 自覚と責任をもって業務に取り組む
- ・ 実現が難しいことでも、できる方法を探す
- ・ 技術力という強みを最大限に活用する
- ・ 課題（情報）を仲間と共有しながら解決していく

相乗効果

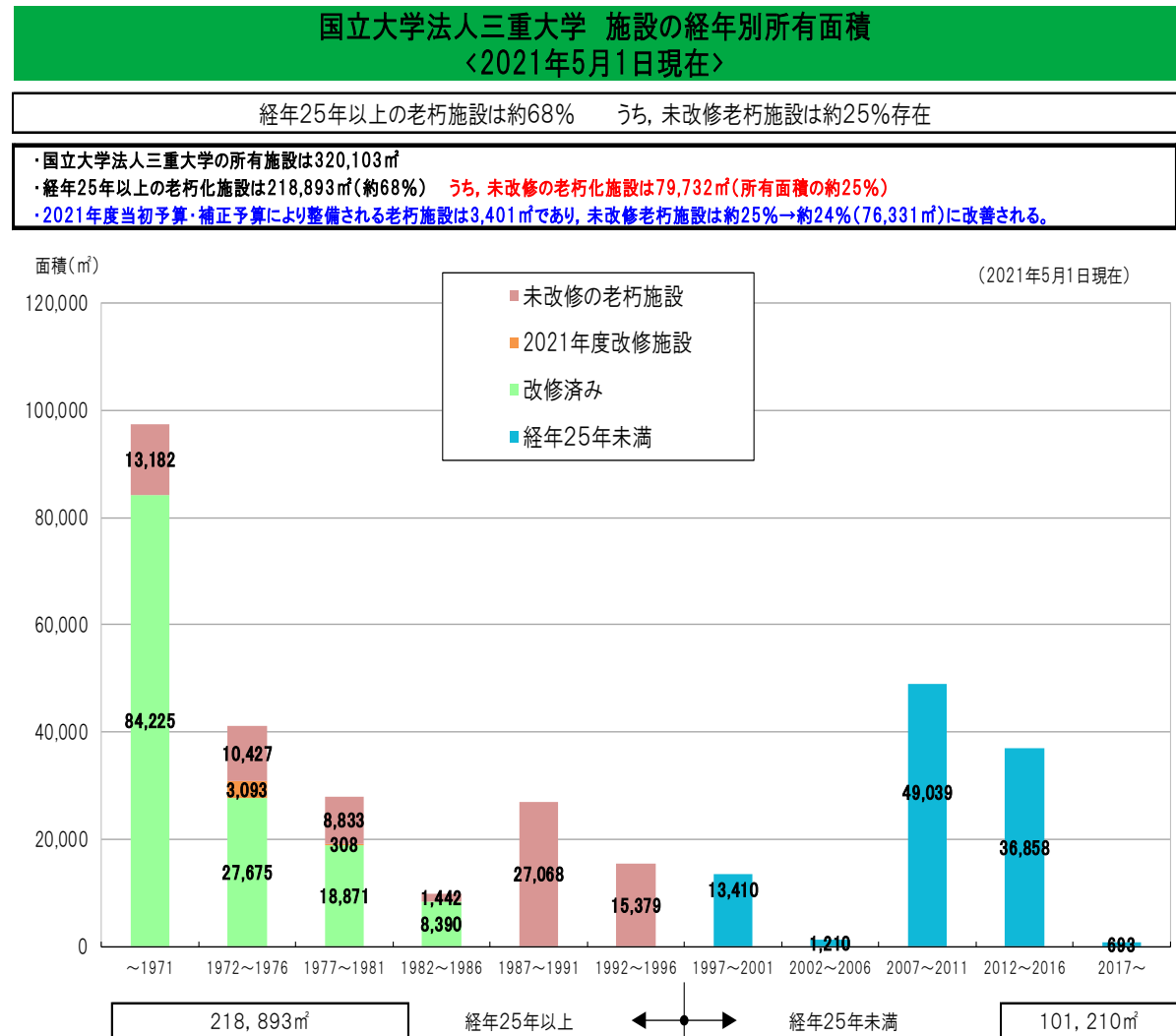
- ・ プロジェクトの実施においては、相乗効果により最大限の効果を図る
- ・ 最低でも1石3鳥

5. 三重大学の施設の現状（1）

三重大学の現状 施設の老朽化

本学が所有している
施設約32.0万㎡
（東京ドーム7個分）
のうち、経年25年を経過
した施設は約7.6万㎡
（所有面積の約20%）
が存在する。

施設の劣化に伴う
安全等のリスクだけで
なく、教育研究に大きな
支障をきたす事がある。



※ 改修済には、自己財源による整備分も含む。また、内外部の機能改善まで完了しているもののみ計上している。

5. 三重大学の施設の現状（2）

国立大学施設の現状 施設の老朽化

経年50年以上の建物の未改修面積は今後5年で増大し、経年30年以上（耐用年数の2倍）を超えたライフラインは今後5年で全体の4割を超える状況となっている。学校施設の老朽化は、安全面等でさまざまな不具合が生じ、重大な事故に直結することがある。

事故発生等のリスクの増大

○重大なリスクの例

1. 外壁の落下等による人命に影響を与える **重大な事故**の発生
2. ライフラインの故障や事故等による **教育研究活動の中断**
3. 停電等による蓄積された **貴重な研究成果の消失**
4. 排水設備等の棄損による **危険物の流出**
5. 躯体劣化の進行による **施設の短命化**



1. 外壁落下

文部科学省大臣官房文教施設企画部「<リーフレット>戦略的な施設マネジメント：大学経営に求められる施設戦略」
2017, p.3.



2. 給水管からの漏水



3. 電気ケーブルの劣化



4. 排水管の腐食

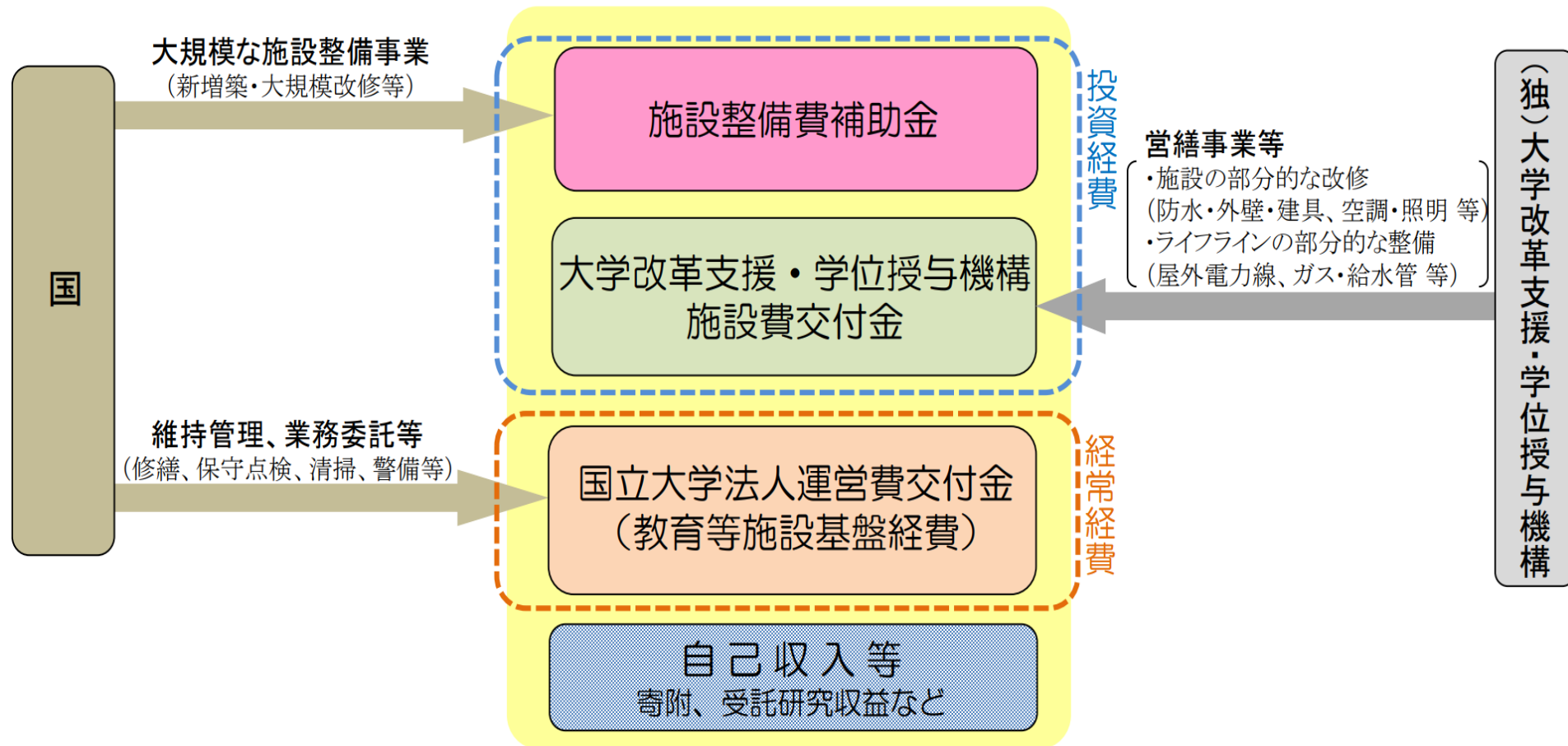


5. 屋上からの漏水



6. 国立大学等の施設整備の仕組み（1）

国立大学法人等



※この他、附属病院については、財政融資資金を活用して整備

6. 国立大学等の施設整備の仕組み（2）

文部科学省の「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」

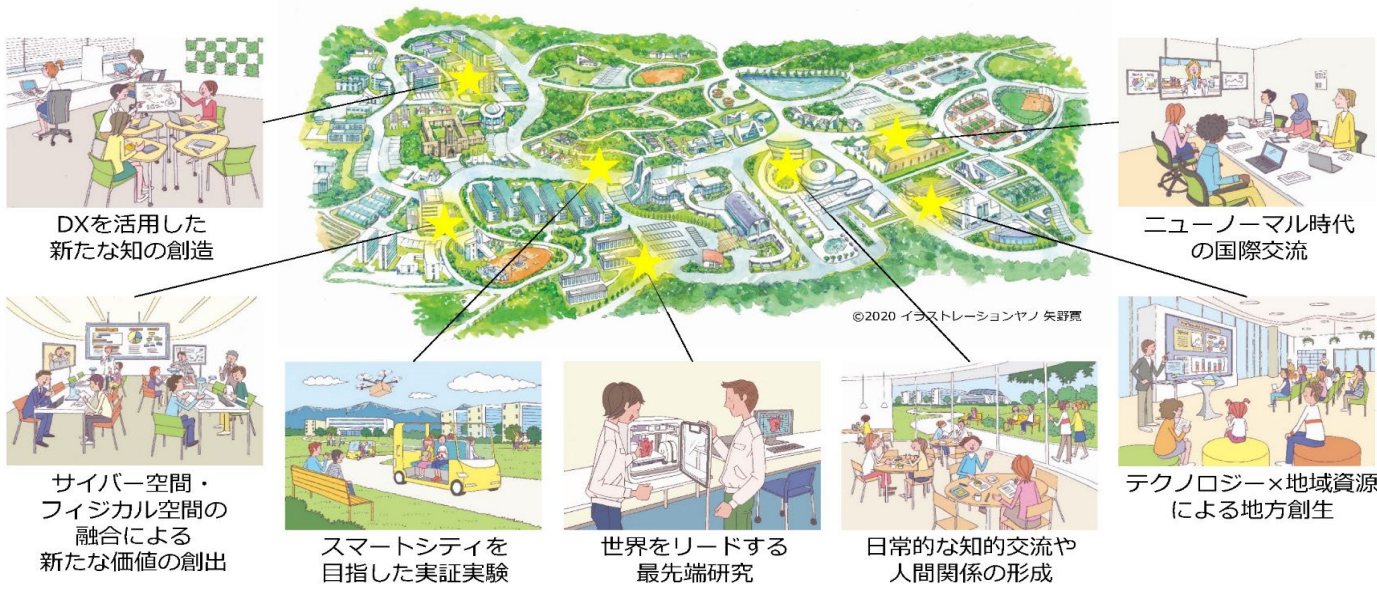
（令和3年～令和7年度）について

「イノベーション・コモンズ」のイメージ

「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」とは

- ・あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレーヤーが**共に創造活動を展開**する「共創」の拠点
- ・教育研究施設の個別の空間だけでなく、食堂や寮、屋外空間等も含め **キャンパス全体が有機的に連携**した「共創」の拠点
- ・**対面とオンラインのコミュニケーションが融合**し、**ソフトとハードが一体**となって取り組まれる「共創」の拠点

⇒ 多様な学生・研究者や異なる研究分野の「共創」、地域・産業界との「共創」の促進等により、
教育研究の高度化・多様化・国際化、地方創生や新事業・新産業の創出に貢献



7. 三重大学の施設整備（1）



スマートキャンパス

スマートキャンパス概要

革新的な省エネ設備・技術を導入し、最適な創エネ・蓄エネ・省エネを実現。エネルギーの効率的な運用をはかるとともに、M I E U（ミエー）ポイントによる環境活動・学習の「見える化」

再生可能エネルギー等を活用しCO₂排出量削減

平成23年10月より、大学全体のCO₂排出量削減のため
再生可能エネルギーの有効活用、CO₂の少ないエネルギーへの転換、次世代空調と蓄電池の導入、それらを統括するエネルギーマネジメントシステムを導入

成果を地域や他大学に紹介し、積極的に技術支援

スマートキャンパスで得られた成果を地域や他大学に紹介し、積極的に技術支援を行い広めていくことが今後の目標

1 エネルギーマネジメントシステム（EMS）

太陽 風
気象データ

総合研究棟Ⅱ
スマートメーター
(各建物の電力使用量を常時監視)

※電力の需要と供給予測
※電力と空調の最適化制御

学内ホームページに表示

デマンド画面（例）
部門毎の消費電力をリアルタイムで確認し、節電に取り組む

2 蓄電池 (432kWh)

電力ピーク低減

蓄電池より放電

契約電力

受電電力

電力(kW)

時間

13 16

蓄エネ：エネルギーをためる

創エネ：エネルギーをつくる

省エネ：エネルギーを上手に使う



三重大学キャンパス (H30年度)

敷地面積	528,040	m ²
建物延面積	279,922	m ²
学生数	7,193	人
教職員数	1,963	人

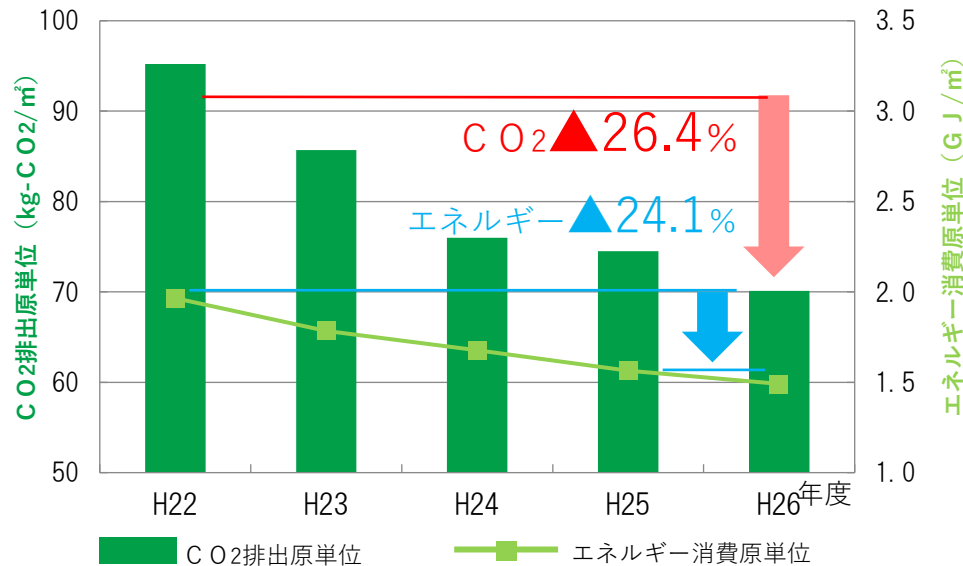
上浜エネルギー使用量 (H30年度)

電気	総需要	43.0GWh
	購入電力	26.9GWh
	自家発電	16.1GWh
ガス		4,760 千m ³
A重油		269 キロリットル
CO ₂ 排出量		23,789 t-CO ₂

三重大学キャンパス イメージ

CO₂・エネルギー削減実績

CO₂・エネルギー原単位の推移



3 ガスコージェネレーション (2,000kW)

CO₂削減のためのエネルギー転換 排熱の有効利用

ガスエンジン設備
：ガスで発電



排熱利用型
吸収式冷凍機

4 風力発電 (300kW)

風況の良い環境を活かし、一般家庭約90軒分の電気を発電

最高高さ
58m



羽根の直径
33m

5 太陽光発電 (60kW)

日照が良いキャンパスで、一般家庭約16軒分の電気を発電

パネルの下は
駐車場利用



太陽光
パネル

6 空調設備(エアコン) 更新

デシカント空調 (温度湿度個別空調) を導入

温湿度
調整空調



温湿度
調整空調
(室外機)

7 LED照明設備

※実証試験後撤去

太陽光発電で作った直流電気を交流に変換せず使用し変換損失を抑制

実証試験した
コンビニ



LED照明

7. 三重大学の施設整備（2）

地域共創プラザ新築



本学の第一食堂は、建設後50年が経過し、安全性の懸念や設備の不具合等を含め、老朽化の進行が著しくなっていました。そのため、地域共創プラザとして建て替えることで安全性を確保すると共に、食堂スペースに加えてイベント等が開催できる多目的室等を備えました。

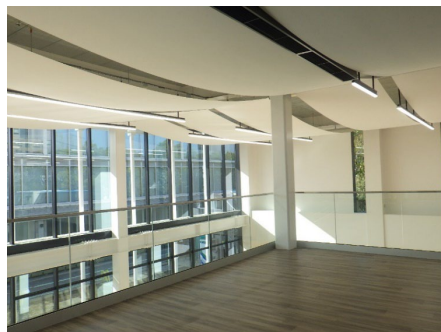
これにより、学内外からの利用者の利便性向上に貢献すると共に、明るく居心地の良い空間を創出しました。

< 施工期間 > 令和4年6月～令和5年3月

< 建物概要 > 鉄骨造 地上2階

建築面積 790㎡

延べ面積 1,310㎡



7. 三重大学の施設整備（3）

クラブハウス改修



改修完了

< 施工期間 > 令和5年4月～令和5年9月

< 建物概要 > 鉄骨造 地上2階

建築面積 860㎡

延べ面積 1,250㎡



改修前

地域共創プラザ新築後、厨房・食堂の機能を移転しその役目を終了した旧第一食堂をクラブハウスとして改修整備しました。これにより、不足している課外活動施設の拡充を図りました。

また、令和5年12月6日に地域共創プラザ、クラブハウス周辺で学生、教職員、大学生協が協同でイルミネーションイベントを開催するなど、今後は共創スペースとしての活用も推進していきます。



7. 三重大学の施設整備（4）

正門周辺整備



改修完了

< 施工期間 > 令和4年7月～令和5年6月

< 整備概要 > 車道、駐車場：アスファルト

自転車道：カラーアスファルト

歩道：インターロッキングブロック

緑地帯：芝張り、花壇



改修前

本学の正門は、特に午前の授業開始前の時間帯には自動車・自転車・歩行者(学生)が集中・交差することが常態化しており、安全性の確保が喫緊の課題となっていました。

そのため、正門周辺を全面的に再整備し、歩車分離による安全性を確保するとともに、駐車場や芝張り及び花壇等の緑地帯を整備し、キャンパス環境の向上と「三重大学の新たな顔」として環境整備を行いました。



7. 三重大学の施設整備（5）

事業者提案施設等事業



事業者提案施設イメージパース

< 事業期間 >

（設計・整備）令和5年3月22日～令和7年2月

（維持管理・運營業務）令和7年4月から20年間

< 事業方式 > PFI（BOT方式）※

< 建物概要 > 鉄骨造 地上4階

建築面積 579㎡・延べ面積 1,961㎡

※民間事業者の資金とノウハウを活用して公共施設等を設計・建設し、維持管理・運営等を行い、事業終了後に公共側に施設の所有権を移転する方式のこと。

本事業は、民間資金による施設整備事業として、厚生労働省が2015年10月に策定した「患者のための薬局ビジョン」に示されている高度薬学管理機能を有する調剤薬局を誘致し、地域包括ケアシステムの一翼を担うことを目的としています。



附属病院全体俯瞰イメージパース

ご清聴ありがとうございました

施設部は人間力向上に努めております